かいじネットワーク

「上野原学」内容を共有

上野原高 中高一貫控え住民らと議論

2027年度に上野原市立中との中高一貫教育を導入する上野原高は、生徒や住民、保護者らによる導入に向けた意見交換会を開いた。同高は、小中学校で行われている郷土学習とつながる授業として「上野原学」の実施を計画していて、参加者が内容について議論した。〈竹川元久〉

上野原高と上野原、上野原西、秋山の3中学による中高一貫教育は、授業や学校行事、部活などで提携する「連携型」。上野原学は、地域の資源や課題、施策を題材とする。内容づくりの参考にし、生徒や住民らに上野原学のイメージを共有してもらおうと、意見交換会を企画し、初めに市や学校の特色について自由に出し合い、「酒まんじゅう」「地層」「主要産業の変化」「都心に近いようで遠いところ」などが挙がった。それぞれの言葉を、上野原学で学ぶタイトルをイメージして「産業」「インフラ」「名所」「酒まんじゅうサミットの開催」などの項目に分け、取り上げたいテーマを発表した。

1年の鈴木瑠桜さんは「とても楽しかった。先生とか大人たちと上野原について話す機会はないので有意義だった」と感想。3年の梶原悠生さんは「地域の大人とやりとりして、知らなかった地域のことを知ることができて良かった。上野原学が地域を知り、これからの上野原について考え、生かす契機になるといい」と話した。

同高学校運営協議会委員長の同市鶴川、志村憲一さん(70)は「想像以上に、生徒が上野原をどうしたいか強く考えていることが分かった。上野原学の必要性、重要性が感じられた」と語った。

同高は、意見交換の内容を上野原学に反映させる予定。内藤京校長は「中高一貫教育導入の理念の一つである、郷土愛の醸成、上野原発展のための人材育成につなげたい」としている。

意見を交わす生徒や住民ら　＝上野原高

ぐんない

甲府担当 小林一美 竹川元久 鈴木涼子 月川なつ美 望優真

甲府

山本昂輝 桑原久美子

中小企業の脱炭素化へ

市が支援 31日にセミナー

甲府市は、中小企業の脱炭素化支援プログラムを始める。専門家による伴走支援で各社の状況に合った取り組みを提案し、導入支援金を交付して「初めの一歩」を後押しする。31日に導入セミナーを開く。

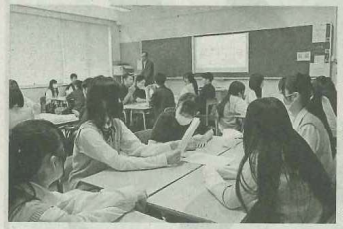
炭素を経営課題として捉え、実行に移すきっかけにしてもらおうと企画した。専門家が各社の課題や状況に応じて、窓断熱への見直しや燃費の良い運転の実践など、効果的で取り組みやすいメニューをアドバイスし、導入にかかる費用を助成する。導入支援金は1社につき最大40万円（補助率3分の2）。セミナー参加事業者の中から、支援を希望する事業者を募集し、選定する。

同課によると、2022年度の市内の二酸化炭素排出量の3分の2以上が、産業や運輸などの事業系による。市は50年までに実質排出量ゼロを目指していて、担当者は「脱炭素化に向けては事業者の取り組みが不可欠」と話す。

セミナーは31日午後3時から、同市丸の内2丁目の複合施設「withKOFU」で開催。30日まで、市ホームページなどの専用フォームから応募を受け付けている。問い合わせは同プログラム事務局（やまなし地域デザイン内）、電話055（225）0016。〈桑原久美子〉

7社の経営者ら事業内容を紹介

甲府城西高で出前授業



アクサ生命保険（本社東京）は、甲府城西高で1年生を対象に、県内企業経営者が講師を務める出前授業を実施した＝写真。1日に行い、約220人が参加。県内で健康経営優良法人に認定されている小売業や製造業、建設業など7社の経営者らが、7クラスに分かれて登壇し、事業内容や健康経営に関する取り組みを紹介した。講演後、紙でタワーを作って高さを競うグループワークやクイズなどを通して交流を深めた。

アクサ生命が取り組むキャリア教育プログラムの一環。高校生に自分の夢や理想を考えてもらうとともに、健康経営に取り組む地元企業を紹介して、キャリア選択の幅を広げてもらおうと企画した。参加した女子生徒(15)は、「企業のトップから話を聞ける貴重な機会。夢をたくさん持つことの大切さを感じた」と話した。〈桑原久美子〉

伝え方の極意を佐々木さん伝授

山梨学院小で特別授業

甲府・山梨学院小は、コピーライターの佐々木圭一さんによる「ノーをイエスに変える技術」と題したオンライン特別授業を開いた＝写真。

佐々木さんは著書「伝え方が9割」シリーズの発行部数が200

郡内の成り立ち 解説

都留市郷土研究会 50周年シンポ

都留市郷土研究会（奈良泰史会長）は15日、市まちづくり交流センターで、設立50周年を記念してシンポジウムを開いた。「見えてきた郡内のすがた」と題して、奈良会長ら3人が郡内地域の成り立ちなどについて研究した成果を紹介した。約20人が来場。奈良会長と佐藤弘副会長、小幡哲明事務局長が登壇し、郡内地域の成り立ちや暮らし、都留市谷村地区の発展などのテーマごとに解説した。佐藤副会長は江戸時代の年貢を「多くの地域では米で納められていたが、郡内は金で納める県内で珍しい地域だった」と語った。

同会は1976年に郡内地域の文化向上を目的に都留市教委によって設立された。年1回ほど刊行している機関誌「郡内地域の地名などについて調査結果をまとめている。2026年度には野口冬受賞した。

奈良会長は「郡内の歴史を研究し、成蓄積してきた。今後域の人々に興味を持ってもらい、伝えていくに力を入れていきたい」と話した。〈望月優

返礼品事業者に制度変更点説明

都留市が勉強会

都留市は市役所で、ふるさと納税の返礼品を扱う事業者を対象にした勉強会を開いた＝写真。ふるさと納税について理解を深めてもらい、寄付額や交流人口の増加につなげようと企画。7日に開催し、約10人が参加した。

市ふるさと納税戦略室の担当者が、返礼品ルールの変更点について説明。仲介サイト「さとふる」の担当者が仲介サイトの利便性や登録人気がある返礼品などを解説した。

が交流サイト（S）を活用した返礼品取り組みを紹介すもあった。

羽毛布団などを羽毛寝具製造「新津」の新津利は「SNSを活用ど、返礼品につい報発信により力をいきたい」と話し〈望月優

情報をお待ちしています

地域の出来事、きれいな景色、ほっこりする話題など

支局・支社が不在の場合は本社編集局

電話055・231・3111 ま

甲府担当 (055)231-3111 FAX 231 3161
峡中支局 (055)280-3230 FAX 280-3231
峡東支局 (0553)22-0339 22-7603 FAX 23-2158
峡南支局 (0556)22-5431 22-5432 FAX 22-1797
峡北支局 (0551)22-0138 22-0158 FAX 22-8162
富士吉田支社 (0555)24-1000 FAX 23-6997
都留支局 (0554)45-8880 FAX 45-8880
大月・上野原支局 (0554)22-0477 FAX 23-2324